

全員参加！乗りきろう 電力危機 !!  
節電にご協力をお願いします

平成23年度 第2回  
しあわせ倍増プラン2009市民評価委員会 次第

平成23年6月24日(金)19:00~21:00  
浦和コミュニティセンター第13集会室

1 開 会

2 議 題

- (1) 「しあわせ倍増プラン2009」取組実績及び達成度等の  
評価について（\*評価対象事業：26事業）

3 その他

4 閉 会

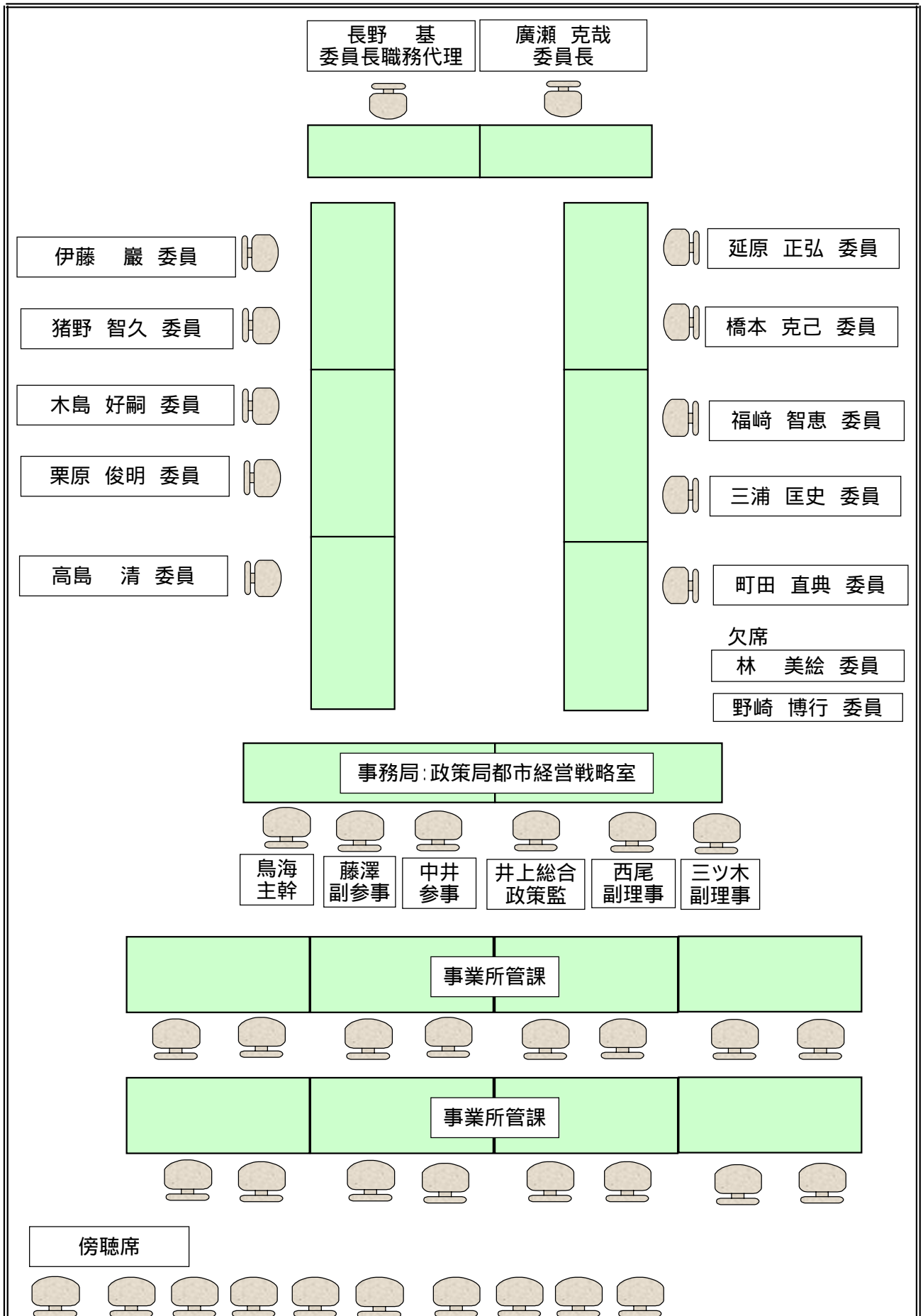
【配布資料】

- ・ 次第
- ・ 座席表
- ・ 所管課職員出席者一覧
- ・ 委員評価取りまとめシート
- ・ 開催日程別評価事業一覧
- ・ 現地視察（案）

# 平成23年度 第2回 しあわせ倍増プラン2009 市民評価委員会 座席表

日時:平成23年6月24日(金) 午後7時～

会場:浦和コミュニティセンター第13集会室



平成23年度 第2回 しあわせ倍増プラン2009市民評価委員会  
所管課職員出席者一覧

宣言・分野		項 目	所 管 課	出席者		
				職 名	氏 名	
条例宣言 (1)	-3	障がい者も健体者も共に地域で暮らせるノーマライゼーション条例を制定します。(すぐ)	障害福祉課	課 長	吉川 洋一	
行財政改革 (9)	1	民間人専門家を入れた行政改革推進チームを、市長直轄組織として設置します。(すぐ)	/			
		1-1	行財政改革推進本部の設置	行政改革チーム	副参事	真々田 和男
		1-2	事務事業評価の見直し	行政改革チーム	副参事	真々田 和男
		1-3	補助事業の見直し	財政課	課 長	高橋 篤
		1-4	外郭団体改革	民間力活用チーム	副参事	土屋 昇
		1-5	公共施設マネジメント会議設置	行政改革チーム	副参事	真々田 和男
	2	すべての窓口業務を区役所で行えるようにします。(すぐ)		/		
		2-1	窓口改革・権限移譲(統括)	区政推進室	参 事	花野井 均
					副参事	有住 勇人
		2-2	予算	財政課	課 長	高橋 篤
		2-3	組織・人事	総務課	課 長	伊藤 道夫
					参事兼課長	高見澤 章
		2-4	くらし応援室の設置	総務課	課 長	伊藤 道夫
					区政推進室	参 事
			副参事	有住 勇人		

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度主な目標等	H22年度主な実績 進捗度aの要素 進捗度cの要素 加点要素 減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点減点	点数	評価理由
条例宣言	-3	「ノーマライゼーション条例」の制定	すく	22年中に制定	条例検討専門委員会などの検討 パブリックコメント実施 平成22年中の条例の制定	委員会を7回開催、協議会を2回開催し、答申 パブリックコメント実施 平成23年3月に市民による市民のための条例として制定	b		7	・制定目標の時期が平成22年中から3か月遅れたが、本条例に基づき障害者支援策を拡充したことから、「b」と判断。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加点減点	点数	
伊藤委員	b		7	関連する法律・内容等が解らないのでコメントなし。
猪野委員	b		7	工程表通り進捗。
木島委員	b		7	評価理由：目標通り
栗原委員	b		7	
高島委員	b	↓	6	遅れた分減点。 今後の取り組みに期待します。
長野委員	b		7	H22年中とは行かなかったが、目標年度内に条例制定に至る。形成過程での参加の工夫も見られた。
野崎委員	b		7	工程表等のとおり進捗されていましたので。
延原委員	b		7	H23からは具体的実施を期待する（例 どこに行ってもバリアフリーであること etc）
橋本委員	b		7	事業計画（工程表）のとおり、進捗したと判断しました。まだその情報が障害者や保護者へ伝わっていない現状で、どのように障害者支援事業が変容していくのか、制定後のイメージを期待している方が多いので、これから期待します。
林委員	b		7	-
廣瀬委員	b		7	遅れが減点要素だが、市民参加の充実と施策拡充の実現を加点要素と考え、加減ゼロとした。
福崎委員	b	↑	8	ひとまず、制定が目標であったのなら、評価していいと思います。今後、その内容の充実取り組みに考慮した、目標の改修を期待します。 指針にある「条例の制定」には、条文を作り、議決して終わり、ではないと思います。
町田委員	b		7	
三浦委員	b	↑	8	年度内（23年3月）の条例制定なので進捗度に問題となるような遅れはないと判断。条例案づくりの委員会活動など市民参加のプロセスを高く評価して加点。
委員会評価 (平均点)	b		7.1	

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度主な目標等	H22年度主な実績 進捗度aの要素 進捗度cの要素 加点要素 減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点減点	点数	評価理由
1 行政改革	1-1	行政改革推進チームの設置(行政改革推進本部の設置)	すく	21年11月に本部設置	行政改革有識者会議3回開催 外郭団体経営改革推進委員会1回開催 行政改革推進プランの策定	行政改革有識者会議3回開催 外郭団体経営改革推進委員会1回開催 行政改革推進プランの策定 行政改革公開審議の実施	a		9	・行政改革有識者会議委員及び任期付採用による民間人の知見を活用しながら、行政改革推進プラン2010を策定できたこと、また、策定にあつたは、本市独自の取組として、行政改革公開審議により、プラン策定後の公表にとどまらず策定過程から情報を公開し、市民意見を反映することができたので、「a」と判断した。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加点減点	点数	
伊藤委員	b		7	特になし。
猪野委員	b	△	8	行政改革公開審議の実施を加点評価。
木島委員	b	△	8	評価理由：進捗度a理由の情報公開について、効果はあると思うが、進捗に繋がる理由が不明のため、加点のみとする
栗原委員	a		9	22年度単年の評価です。そもそもの事業目的から考えると、既に達成された目標であるため、b7または評価対象外と考えます。
高島委員	a		9	行政改革公開審議の実施を評価します
長野委員	b	△	8	無作為抽出市民委員による公開審議が追加された取り組みは、市民参加としての加点要素ではあるが、6月に実施する内容が年度目標に組み込まれていないこと自体はやや疑問である。
野崎委員	b	△	8	概ね工程表のとおり進捗していましたので。
延原委員	a		9	特になし。
橋本委員	b	△	8	公開審議の実施の点を加点評価しました。
林委員	a		9	公開審議の実施と、その内容を反映したことを評価。
廣瀬委員	a		9	内部評価と同様に評価
福崎委員	a		9	最も喫緊の課題として取り組まれている様子がわかります。
町田委員	a		9	
三浦委員	a		9	進捗度は内部評価と同様の判断。ただし、震災対応の危機管理分野や新しい公共の施策反映など、既定の組織業務に位置づけのないものが、とりあえず行政改革本部マターになってはいないか？「行政改革」であるから、財政改革面に偏らずに行政改革面の本論を追求してもらいたい。
委員会評価(平均点)	a		8.5	

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度主な目標等	H22年度主な実績 進捗度aの要素 進捗度cの要素 加点要素 減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点減点	点数	評価理由
1 行政改革	1-2	行政改革推進チームの設置(事務事業評価の見直し)	すぐ	24年度末までに100事業の縮小・廃止	新たな評価方法等の構築 新たな評価方法による事務事業の見直しによる事業の縮小・廃止(25事業)	「見直しの常態化」サイクルの構築 91事業を縮小・廃止(効果額約6億円)	b	↑	8	・平成22年度の数値目標、工程表のとおり進捗したので「b」と判断した。 ・数値目標である25事業の3倍以上となる91事業の見直しを達成できたことから加点評価した。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加点減点	点数	
伊藤委員	b		7	特になし。
猪野委員	a		9	目標値を大幅に上回る進捗。
木島委員	a	↑	10	評価理由:達成率360%を評価(実績91事業/目標25事業)
栗原委員	a		9	件数・内容とも、もう少し評価しても良いと判断します。
高島委員	b	↑	8	目標を大きく上まった点を評価します
長野委員	b	↑	8	工程表を上回る事業数の縮小・廃止が実施された。
野崎委員	b	↑	8	事業計画以上に事業見直しを達成されましたので。評価方法の更なる見直しと、意識改革は継続していただきたい。
延原委員	b		7	マイナス1点とした共通の理由:目標値に金額目標が設定されていないため。いずれの項目も最終目標値はいくら金額ベースで削減できたかである事がないため。
橋本委員	b	↑	8	25 91事業の見直し達成を加点評価しましたが、効果額について判断できる材料が乏しかったので更なる加点はなし。
林委員	b	↑	8	91事業という数を評価。 しかしきちんと廃止・縮小・終了されているかが気になる。
廣瀬委員	b	↑	8	内部評価と同様に評価
福崎委員	a		9	設定目標に対する取り組み結果を、高く評価します。 ただ、ホームページに22年度の点検結果内容の掲載は、まだされていないのでしょうか?
町田委員	a		9	
三浦委員	b	↑	8	進捗度は内部評価と同様の判断。このサイクルを定着・成長させてもらいたい。
委員会評価 (平均点)	b		8.3	

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度主な目標等	H22年度主な実績 進捗度aの要素 進捗度cの要素 加点要素 減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点減点	点数	評価理由
1 行政改革	1-3	行政改革推進チームの設置(補助事業の見直し)	すぐ	22年度予算から聖域なき見直し実施	「補助金等見直しメルクマール(判断基準)」に基づく再構築の実施  見直し結果の平成23年度予算への反映	事務事業総点検における課題の把握と補助事業の再構築を実施  平成23年度予算において、昨年度を上回る見直し結果を反映	b	+	8	・平成22年度の取組方針、取組内容、事業計画のとおりに進捗したので、進捗度は「b」と判断した。 ・平成23年度予算に反映された見直しの効果が、昨年度(57件)に比べ、約3倍の151件となったことを加点評価した。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加点減点	点数	
伊藤委員	b		7	特になし。
猪野委員	b	+	8	昨年度を上回る二億七千万円の削減効果を加点評価。
木島委員	b		7	評価理由: 加点理由に前年超とあるが、目標に数値が定められていないため評価外とした。
栗原委員	a		9	件数・内容とも、もう少し評価しても良いと判断します。ただ本当に必要とされるべき補助金までが削減されているのでは、という不安もあります。
高島委員	b	+	8	実績を評価。 今後も推進していただきたい。
長野委員	b		7	工程表通りの実施内容である。見直し件数を年度間で比較するという評価基準は入っていないため、加点要素とはせず。
野崎委員	b		7	確りとした指標に基づいて今後も引き続き継続していただきたい。
延原委員	b		7	マイナス1点とした共通の理由: 目標値に金額目標が設定されていないため。いずれの項目も最終目標値はいくら金額ベースで削減できたかである事がないため。
橋本委員	b	+	8	事業計画(工程表)のとおりに、進捗したと判断、主な成果の分母/割合等が分かり難く、1加点のみとしました。
林委員	b	+	8	-
廣瀬委員	b	+	8	内部評価と同様に評価
福崎委員	b	+	8	見直し基準の整備を、持続的取り組みのために丁寧に行って頂きたいと思います。
町田委員	b	+	8	
三浦委員	b		7	内部評価の加点要素は件数だが、補助事業見直しの成果(進み具合)を図る物差しは「費用対効果の効率アップ」につきると考える。その点でプラン以上に進んだかどうかの判断はできない。
委員会評価(平均点)	b		7.6	

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度主な目標等	H22年度主な実績 進捗度aの要素 進捗度cの要素 加減要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加減点	点数	評価理由
1 行政改革	1-4	行政改革推進チームの設置(外郭団体改革)	すぐ	21年7月に外郭団体経営改革推進委員会設置、21年度中にプラン策定	合併により外郭団体を1団体削減 経営悪化した外郭団体1団体の経営再建	合併により外郭団体を1団体削減 経営悪化した外郭団体1団体の経営再建	b		7	・平成22年度の数値目標、取組内容、工程表のとおり進捗したので「b」と判断した。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加減点	点数	
伊藤委員	b		7	特になし。
猪野委員	b		7	工程表通り進捗。
木島委員	b	↓	6	評価理由：外郭団体改革プラン(概要)のP2に対する進捗状況として、浦和商业開発・北浦和ターミナルビルについて進捗不明
栗原委員	b		7	
高島委員	b		7	
長野委員	b		7	工程表通り、外郭団体改革プランに基づき、実施されている。
野崎委員	b		7	概ね工程表のとおり進捗していましたので。今後も引き続き透明性の向上に努めていただきたい。
延原委員	b	↓	6	マイナス1点とした共通の理由：目標値に金額目標が設定されていないため。いずれの項目も最終目標値はいくら金額ベースで削減できたかである事がないため。
橋本委員	b		7	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。
林委員	b		7	
廣瀬委員	b		7	工程表通りに実施されている。再建の内容はサステイナブルか？
福崎委員	b	↑	8	継続して、23年度も監督・必要な削減を、行って頂きたいと思います。
町田委員	b		7	
三浦委員	b		7	プラン通りに進められていると判断。
委員会評価(平均点)	b		6.9	



宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度主な目標等	H22年度主な実績 進捗度aの要素 進捗度cの要素 加点要素 減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点減点	点数	評価理由
1 行政改革	1-5	行政改革推進チームの設置(公共施設マネジメント会議設置)	すぐ	23年度末までに公共施設マネジメント計画策定	「公共施設マネジメント会議」を設置  市民利用施設と行政施設の現況調査及び分析を行い、平成22年度の成果について報告書を作成	公共施設マネジメント会議を設置  コスト試算の実施及び公共施設マネジメント方針の策定  報告書未作成	b		7	・市民利用施設と行政施設の調査・分析を進めましたが、東日本大震災の影響により本年度最後の会議を開催できず、報告書を策定できなかったため、減点評価した。 ・計画の前段として、将来コストを試算し基本的な考え方を方針として整理したため、加点評価した。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加点減点	点数	
伊藤委員	b		7	特になし。
猪野委員	b	↑	8	公共施設マネジメント方針を策定したことを加点評価。
木島委員	b		7	評価理由：未達だが方針策定を計画の骨子としたことを評価
栗原委員	b		7	
高島委員	b	↓	6	報告書未作成で減点
長野委員	b		7	工程表通り、会議体は創設され、コスト計算などの調査も実施された。また、計画策定への中間報告もされている。
野崎委員	b		7	確りとしたマネジメント計画の策定行っていただき今後も継続していただきたい。
延原委員	b		7	特になし。
橋本委員	b		7	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。
林委員	b	↓	6	報告書未完成によって。 H23年で進捗の挽回を期待。
廣瀬委員	b		7	工程表通りに取り組みられてきた。震災影響は不可抗力として減点対象とせず。また、新年度に入って震災も検討対象に加えた形での報告書の完成に向かっており、遅れのマイナスを取り返している。
福崎委員	b	↑	8	震災の影響は、評価を下げる理由としては挙げなくてもいいと思います。 報告書作成前の方針内容が十分に討議されていたのであれば、高い評価でいいと思います。
町田委員	b	↑	8	
三浦委員	b		7	進捗度は内部評価と同様。 重要な案件なのでこれからの取り組みに注目したい。
委員会評価 (平均点)	b		7.1	

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度主な目標等	H22年度主な実績 進捗度aの要素 進捗度cの要素 加点要素 減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点減点	点数	評価理由
1 行政改革	2-1	すべての窓口業務を区役所で(窓口改革・権限移譲<統括>)	すぐ	23年に区役所の窓口業務拡大	区役所のあり方検討委員会6回開催(通算7回) 市民アンケート調査の実施 窓口業務の改善・拡大、区長への権限移譲内容の決定	区役所のあり方検討委員会6回開催(通算8回) 市民アンケート調査の実施 窓口業務の改善・拡大、区長への権限移譲内容の決定	b		7	・平成22年度の数値目標、取組内容、工程表のとおり進捗したので「b」と判断した。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加点減点	点数	
伊藤委員	b		7	現状を確認すべきである。(すべての項)
猪野委員	b		7	工程表通り進捗。
木島委員	b		7	評価理由：計画通り
栗原委員	b		7	
高島委員	b		7	
長野委員	b		7	工程表通りの進捗である。
野崎委員	b		7	概ね工程表のとおり進捗していただきました。窓口業務の更なる効率化、市民ニーズも確りと続けていただき本来のあるべき姿、今後の姿を検討していただきたい。
延原委員	b		7	特になし。
橋本委員	b		7	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。
林委員	b		7	工程表の通り。
廣瀬委員	b		7	工程表通りの進捗
福崎委員	a		9	個人的な実感として、自宅に近い区役所での窓口業務の充実ぶりに、大変満足しています。今後の更なる改革を期待します。
町田委員	b		7	
三浦委員	b		7	プラン通りに進められていると判断。
委員会評価(平均点)	b		7.1	

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度主な目標等	H22年度主な実績 進捗度aの要素 進捗度cの要素 加点要素 減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加 点 減 点	点 数	評価理由
1 行政改革	2-2	すべての窓口業務を区役所で(予算)	す ぐ	区の独自性・裁 量性が発揮でき るよう予算制度 改革	新たな予算 制度の構築に 向けた取組み の実施	区役所アイデア 予算枠を創設  区長による各区 の提案コンペを 実施	b		7	・平成22年度の数値目 標、取組内容、工程表等 のとおり進捗したので、 「b」と判断。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進 捗 度	加 点 減 点	点 数	
伊藤委員	b		7	現状を確認すべきである。(すべての項)
猪野委員	b		7	工程表通り進捗。
木島委員	b		7	評価理由：計画通り コメント：採用された施策の実施結果が今後の評価になるべき
栗原委員	b		7	さいたま市の未来のかかった、大切な事業だと考えます。
高島委員	b	ア	8	区長コンペなど新しい取り組みをどんどん取り入れてほしい。
長野委員	b		7	工程表通り、新たな予算要求枠が創設された。
野崎委員	b		7	概ね工程表のとおり進捗していましたので。今後も引き続き透明性の向上に努めていただきたい。
延原委員	b		7	特になし。
橋本委員	b		7	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。
林委員	b		7	工程表の通り。
廣瀬委員	b		7	任命職である区長のイニシアチブの範囲についての配慮、設定が必要ではないか。
福崎委員	b	ウ	6	「現場の声を政策・予算に反映しました」という状況の報告が、具体性に欠けて、改革の進捗には適切でないように思います。 予算制度改革には、十分に力を入れて取り組んでいただきたいと思います。
町田委員	b		7	
三浦委員	b		7	プラン通りに進められていると判断。 予算を伴う区役所への権限移行は、公選制ではな区長の政策を区民がチェックできる仕組みとセットでなければ問題がある。
委員会評価 (平均点)	b		7.0	

宣言・分野	事業番号	倍增プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度主な目標等	H22年度主な実績 進捗度aの要素 進捗度cの要素 加減要素 減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加減点	点数	評価理由
1 行政改革	2-3	すべての窓口業務を区役所で(組織・人事)	すぐ	22年度末までに区長の組織や人事配置の権限見直し	簡素で効率的な組織体制の維持を基本原則として、区長に組織編成権限の付与。  区の実情に応じた柔軟な対応を図るため、区長に区全てのポストの配置権限を付与。	区長に係の組織編成権限を付与することとしました。  区長に区全てのポストの人事配置権限を付与することとしました。	b	↓	6	付与する方針を決定したものの、実際に権限を付与するまでに至らなかった点を減点。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加減点	点数	
伊藤委員	b		7	現状を確認すべきである。(すべての項)
猪野委員	b	↓	6	権限の付与に至っていない点を減点評価。
木島委員	b	↓	6	評価理由：工程表に対しては遅れない。但し、H22設定目標よりは未達な為、減点
栗原委員	b	↓	6	さいたま市の未来のかかった、大切な事業だと考えます。 人事異動方針については熟慮と責任感の欠如に繋がりがねないことなので、方針または年数の検討を願います。
高島委員	c	↑	5	目標不達成ももう一息！
長野委員	b	↓	6	工程表に従って、区長に人事配置権を移行する方針までは組織決定されたが、実施はされていない。
野崎委員	b		7	区役所で、組織体系が異なることが有るようですので今後に向けて市民の混乱を招かない工夫が望まれます。
延原委員	b	↓	6	*2-2のアイデア予算枠以外の予算編成権及び執行権を区長にどの程度与えているか、当日(ヒアリング時)説明ください。
橋本委員	b		7	内部評価コメントと事業計画(工程表)との対比が分かり難く、判断が難しいです。
林委員	c		4	付与していない。
廣瀬委員	b	↓	6	内部評価と同様に評価
福崎委員	c	↑	5	人事権は長の権限として重要だと思います。これを指標に置かならば、現実に行われなければ評価できないと思います。
町田委員	b		7	
三浦委員	b	↓	6	内部評価と同様の判断。
委員会評価 (平均点)	b		6.0	

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度主な目標等	H22年度主な実績 進捗度aの要素 進捗度cの要素 加点要素 減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加 点 減 点	点 数	評価理由
1 行政改革	2-4	すべての窓口業務を区役所で(くらし応援室の設置)	す ぐ	21年7月設置	・くらし応援室で取扱う窓口等業務の拡大	・窓口等業務の一部移管を含め、平成23年度から16事務をくらし応援室に移管	b		7	・平成22年度の目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので、「b」と判断した。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進 捗 度	加 点 減 点	点 数	
伊藤委員	b		7	くらし応援室の現状、成果等を確認すべきです。
猪野委員	b		7	工程表通り進捗。
木島委員	b		7	評価理由：計画通り コメント：結果を数値で判断できるのならば目標も数値化すべき
栗原委員	b		7	
高島委員	b		7	
長野委員	b		7	工程表通りの成果である。
野崎委員	b		7	今後益々多様化したニーズが予想されます。それに合わせて迅速かつ柔軟な対応が望まれます。
延原委員	b	↓	6	減点理由：目標に数値目標なし。実績に16業務移管とあるも達成したのか否か不明。
橋本委員	b		7	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。 くらし応援室の利用率や担当課への案内等行政内において効果があった点はあるのか？利用者満足度の調査はあるのか？
林委員	b		7	工程表の通り。
廣瀬委員	b		7	工程表通りの進捗。移管メリットの評価も必要ではないか。
福崎委員	b		7	目標設定が他の事業と比べて漠然としすぎているように思います。
町田委員	b		7	
三浦委員	b		7	内部評価と同様の判断。
委員会評価 (平均点)	b		6.9	

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度主な目標等	H22年度主な実績 進捗度aの要素 進捗度cの要素 加点要素 減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点減点	点数	評価理由
行動宣言	-1	マニフェスト検証大会を毎年開催。	4年以内	外部評価の実施 検証大会開催	市民評価委員会設置 市民評価委員会8回開催 市民評価報告会1回開催	市民評価委員会設置 市民評価委員会11回開催(平日夜間開催) 市民評価報告会1回開催	b	↑	8	・平成22年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので、「b」と判断した。市民評価委員会開催に当たって、より市民が参加しやすい開催時間を設定したことや、市民参加度が高まる取組を実施したことなどを加点評価した。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加点減点	点数	
伊藤委員	b		7	手間が掛る委員会である。
猪野委員	b		7	工程表通り進捗。報告会への市民の参加をもっと促すべき。
木島委員	b		7	評価理由：目標通り コメント：加点理由の市民参加度が高まる取り組みといった内容が具体的に分からず判定不可。開催回数は目標を上回っているが、回数達成が目的ではないと思われるので加減なし。
栗原委員	b		7	開催時刻等の検討は評価できるものの、所管からの説明が不十分等、運営面に問題があったように思います。
高島委員	b		7	-
長野委員	b		7	工程表通りの進捗である。
野崎委員	b		7	工程表等のとおり進捗されていますが、市民評価委員会、報告会共に市民への浸透がより望まれます。市政運営にどのように活かされるのが今後の課題です。
延原委員	b		7	減点理由：現場の抽出してきた評価をそのまま会議に出しているケースが散見された(目標値のない事業の達成度は現場へ差し戻すべき)
橋本委員	b		7	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。
林委員	b	↑	8	工程表の進捗を達成している。 また、これが初年度となる取組みだったが、2年目以降にもつながる体系的な仕組みができたと評価。
廣瀬委員	b		7	初年度のため時期の遅れなど減点要素があったが、質疑応答などを通して事業遂行の意義についての意識づけを促すなどの意義もあったと考えられるので、加減ゼロとした。
福崎委員	b	↑	8	目標に対する取り組みとしては、問題なく実行されたように思います。 今後、開催回数以外の目標を加えるか否かが、検討対象になるかと思っています。
町田委員	b		7	
三浦委員	b	↓	6	取り組み初年度のためやむを得ない感もあるが、前年度事業の検証としてはタイミングが遅すぎた。
委員会評価(平均点)	b		7.1	

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度主な目標等	H22年度主な実績 進捗度aの要素 進捗度cの要素 加点要素 減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点減点	点数	評価理由
行動宣言	-2	タウンミーティング	4年以内	累計80回(各区年2回)	・タウンミーティング20回開催(累計40回)	・タウンミーティング20回開催(累計41回)	b		7	・平成22年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので、「b」と判断。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加点減点	点数	
伊藤委員	b		7	内容が問題で回数は関係ない。
猪野委員	b		7	工程表通り進捗。市民の声がどこに、どのように反映されているのかをはっきりと公表すべき。最も意味があるのはその部分ではないだろうか。
木島委員	b		7	評価理由：目標通り コメント：市政へ民意が反映されている形が見えない
栗原委員	b		7	テーマの決定はどのようになされているのでしょうか？もし可能であれば、運営サイドで決めてしまうのではなく、公募という形をとれば、より市民の本当の声に近づけるのでは？
高島委員	b	↓	6	回数は目標の通りだが、参加人数がかなり少ない区があるので減点
長野委員	b		7	工程表通りの進捗である。
野崎委員	b		7	前年度より開催回数は達成されていますが、参加者数が減少しており市民満足度の向上と共に参加人数の向上も重要だと考えます。
延原委員	b		7	いずれも(-2~-5)同一コメントだが、H21の開催、訪問結果をH22にどう反映させたのか、H22の開催、訪問結果をH23にどう取り入れたのが全く説明されていない。
橋本委員	b		7	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。 回数はクリアしているが、タウンミーティングの声を迅速に・・・という目標に対する成果が見えない点は気になります。
林委員	b		7	工程表の通り。
廣瀬委員	b		7	工程表通りに実施されているが、その成果についての意識化が必要ではないか。
福崎委員	b	↑	8	継続的な協議会の実施は、労力を要すると思いますので、評価を上げました。告知方法の提示も、今後改善していくために、詳細を載せた方がいいと思います。
町田委員	b		7	
三浦委員	b		7	進捗度はプラン通りと評価する。 タウンミーティングの成果がどのように政策に反映されるかを市民に分かりやすく伝えなければ、尻すぼみになってしまうおそれがある。
委員会評価(平均点)	b		7.0	

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度主な目標等	H22年度主な実績 進捗度aの要素 進捗度cの要素 加点要素 減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点減点	点数	評価理由
行動宣言	-3	現場訪問	4年以内	累計400回	・現場訪問を110回実施	・現場訪問を117回実施	b		7	・平成22年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので、「b」と判断。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加点減点	点数	
伊藤委員	b		7	内容が問題で回数は関係ない。
猪野委員	b		7	工程表通り進捗。現場の意見がどこに、どのように反映されたのか公表すべき。
木島委員	b		7	評価理由：回数、訪問先共にほぼ目標通り
栗原委員	b		7	
高島委員	b		7	
長野委員	b		7	工程表通りの進捗である。
野崎委員	b		7	訪問回数は前年を上回っていますが、訪問先に偏りが感じられます。広く民間を含め様々な現場への訪問に意義を感じます。
延原委員	b		7	いずれも(-2~-5)同一コメントだが、H21の開催、訪問結果をH22にどう反映させたのか、H22の開催、訪問結果をH23にどう取り入れたのか全く説明されていない。
橋本委員	b		7	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。 2年目の取り組みで公共施設や公共的団体への訪問が多かったのはどうしてなのか？ 企業やNPOへの訪問を増やさないと市民の声が限られてしまうのではないかと。
林委員	b		7	積極的な取組みが見られる。
廣瀬委員	b		7	工程表通りに実施されているが、その成果についての意識化が必要ではないか。
福崎委員	b	7	8	すばらしいと思います。 「現場の意見を反映します」という指標に関する目標の設置がないことが気になります。何か、現場訪問から生まれた市政への反映が評価できなければ、この指標が上滑りしてしまうと思います。
町田委員	b		7	
三浦委員	b		7	タウンミーティングと同様の評価内容。
委員会評価 (平均点)	b		7.1	



宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度主な目標等	H22年度主な実績 進捗度aの要素 進捗度cの要素 加点要素 減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点減点	点数	評価理由
行動宣言	-4	学校訪問	4年以内	165校(市立幼稚園、小・中・高・特別支援学校)	・学校訪問目45校実施	・学校訪問49校実施	b		7	・平成22年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので、「b」と判断。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加点減点	点数	
伊藤委員	b		7	内容が問題で回数は関係ない。
猪野委員	b		7	工程表通り進捗。
木島委員	b		7	評価理由：回数、訪問先共にほぼ目標通り
栗原委員	b		7	
高島委員	b		7	
長野委員	b		7	工程表通りの進捗である。
野崎委員	b		7	工程表等の以上に実施されていますが、量よりも質に重点を置いた学校訪問を重ねていくことが重要だと考えます。
延原委員	b		7	いずれも(-2~-5)同一コメントだが、H21の開催、訪問結果をH22にどう反映させたのか、H22の開催、訪問結果をH23にどう取り入れたのが全く説明されていない。
橋本委員	b		7	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。学校現場では市長訪問の機会を意識して取り組んでいるのかどうか、教育委員会側の姿勢も重要と考えます。
林委員	b		7	工程表の通り。ただ、高校が少ない。
廣瀬委員	b		7	訪問先の選択、時間帯の設定など、内容、目的に照らしての訪問方法の工夫が必要ではないか。
福崎委員	b	7	8	訪問、視察はとても大切な取り組みだと思います。さいたま市内全域で、何校あるのか、母集団の数を掲載しておくべきかと思います。その中で、今後の取り組みのためにも、訪問が難しいなどの傾向性も考察していくといいと思います。
町田委員	b		7	
三浦委員	b		7	タウンミーティングと同様の評価内容。
委員会評価(平均点)	b		7.1	

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度 主な目標等	H22年度主な実績 進捗度aの要素 進捗度cの要素 加減要素	H22年度達成度 (内部評価)			評価理由
							進捗度	加減点	点数	
行動宣言	-5	職員との車座集会	4年以内	累計100回	・車座集会30回実施	・車座集会29回実施	b		7	・平成22年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので、「b」と判断。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加減点	点数	
伊藤委員	b		7	内容が問題で回数は関係ない。
猪野委員	b		7	工程表通り進捗。
木島委員	b		7	評価理由：回数ほぼ目標通り
栗原委員	b		7	健全な市政運営を行っていく上で、とても大切な事業だと考えます。
高島委員	b		7	
長野委員	b		7	ほぼ工程表通りの進捗である。
野崎委員	b		7	工程表等のとおり進捗されていますが、意見に対しての検証をしっかりと行っていくことで今後の意識や効果が高まっていくものだと思います。
延原委員	b		7	いずれも(-2~-5)同一コメントだが、H21の開催、訪問結果をH22にどう反映させたのか、H22の開催、訪問結果をH23にどう取り入れたのが全く説明されていない。
橋本委員	b		7	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。
林委員	b		7	工程表の通り。
廣瀬委員	b		7	全体的な効果については説明されているが、職場ごとの課題の違いなどもう少し個別具体的な課題把握が必要ではないか。
福崎委員	b	▲	8	自分の考えを言葉にして、発言できる場を持てるのは、能力向上という面から、非常に大切だと思います。ホームページ記載の内容を見る限り、常に新しい参加者の方がいて、職員に浸透していっているように思えました。
町田委員	b	▼	6	
三浦委員	b		7	タウンミーティングと同様の評価内容。
委員会評価 (平均点)	b		7.0	

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度主な目標等	H22年度主な実績 進捗度aの要素 進捗度cの要素 加減要素 減要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加減点	点数	評価理由
条例宣言	-1	「多選自粛条例」の制定	すぐ	21年度中に在任期間に関する条例制定	・条例案の再提出に向けた、内容や提出時期の検討	・条例案の再提出に向けた具体的な動きや検討には至らなかった。	d		1	・平成21年度中の制定を目指して条例案を提出したが、否決され、内容と提出時期の検討が続いており、期日目標に遅れが生じているため、進捗度を「d」と判断。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加減点	点数	
伊藤委員	d		1	否決の要因を考えるべきではないか？
猪野委員	d	↓	0	22年度中の取組み内容が見えなかったため「d-0」とした。
木島委員	d	↓	0	評価理由：取り組みがなされていない
栗原委員	d		1	
高島委員	d	↓	0	具体的な動きや検討に至らなかったのでは評価の仕様がいない
長野委員	d		1	再上程はなされず、成立のための前進を図ることが出来なかった。
野崎委員	d		1	否決後の動きが見られず、検討に至っていないとのこと、再検討、提出時期の検討が早期に望まれます。
延原委員	d		1	特に無し。評価の要もない。
橋本委員	d		1	評価・判断の難しい事業なのですが、進捗状況で判断しました。
林委員	d	↓	0	進捗がみられない。
廣瀬委員	d	↓	0	政治姿勢を明確化するための条例策定であり、行政計画の進捗評価にそぐわない内容の事業である。
福崎委員	d		1	活発化した市長の取り組みの、今後の定着を目指す上で、今から期間の限定をしようとしなくてもいいのではないのでしょうか？
町田委員	d		1	
三浦委員	d	↓	0	条例否決を受けた後の検討がなされていないという状況では評価しようがない。
委員会評価 (平均点)	d		0.6	

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度主な目標等	H22年度主な実績 進捗度aの要素 進捗度cの要素 加点要素 減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点減点	点数	評価理由
条例宣言	-2	「さいたま市スポーツ振興まちづくり条例」の制定	すく	21年度末までに制定	・具体的な施策を盛り込んだ「スポーツ振興まちづくり計画」の策定	・さいたま市スポーツ振興まちづくり計画素案の策定 東日本大震災の影響により、年度内での計画未策定。	b	↓	6	・計画素案までの策定を進めたため「b」と判断したが、東日本大震災の影響により、計画策定のための審議会が開催できず、年度内での計画の策定に至らなかったため、減点評価した。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加点減点	点数	
伊藤委員	b	↓	6	スポーツ振興の余裕がないと感じる。
猪野委員	b		7	震災の影響により審議会を開けず、策定に至らなかったのであれば、その部分の進捗の遅れはやむを得ない。したがって減点対象とはせず、それを除いた箇所は工程表通りといえる。一方で、審議会の開催を11日以前に行うことはできなかったのか、疑問に感じた。
木島委員	c		4	評価理由：工程表スポーツ振興まちづくり推進会議未設置
栗原委員	b	↓	6	
高島委員	c	↑	5	計画が未策定なのでC。素案までできているので加点
長野委員	b	↓	6	ほぼ工程表通り、計画審議は進むが最終形としての計画策定には至らず。
野崎委員	b	↓	6	年度毎に工程表に沿って計画の策定を行いより広範な団体からの意見聴取を継続していただきたい。
延原委員	c	↑	5	計画身策定なので減点。 * 審議会が3.11震災で実施できなかったかどうかは評価に加案せず。
橋本委員	b	↓	6	震災の影響があっても事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。しかし計画上の遅れがあるので減点にしました。
林委員	c		4	震災の為とはいえ、進捗としては遅れている。 H23年度に挽回を期待。
廣瀬委員	b	↓	6	震災の影響は減点要素としないが、進捗としての遅れを減点とした。
福崎委員	b		7	震災の影響は、評価を下げる理由としては挙げなくてもいいと思います。 期日の目標も大事ですが、条例制定の審議などは、複数年度にわたる間に、そのまま消えてしまわないようにすることが大事かと思えます。
町田委員	c	↑	5	
三浦委員	b	↓	6	内部評価と同様の判断。
委員会評価 (平均点)	b		5.6	

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度主な目標等	H22年度主な実績 進捗度aの要素 進捗度cの要素 加点要素 減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点減点	点数	評価理由
条例宣言	-4	「子ども総合条例」等の制定	2年以内	22年度未までに制定	児童生徒へのアンケート及び市長との対話の実施 市民へのアンケート実施 規程案の作成 パブリックコメントの実施 条例等の制定	児童生徒へのアンケート及び市長との対話の実施 市民へのアンケート実施 規程案の作成 パブリックコメント未実施 条例等未制定	c		4	・パブリックコメントの実施及び条例等の制定について、次年度対応となったので、「c」と判断。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加点減点	点数	
伊藤委員	c		4	これからの子どもを考えた時、将来、国のあり方を考えた上での方向付が必要。
猪野委員	c		4	パブリックコメント未実施・条例等未制定であったため進捗は遅れていると判断した。
木島委員	c	↓	3	評価理由：遅延かつ条例が具体的に進捗していない（進捗が分からない）
栗原委員	c		4	
高島委員	c		4	早急な条例の制定を望みます
長野委員	c		4	条例制定には達せず。議論の中から政策目標・内容の転換も図られようとしている。スケジュール通りとならなかった理由の説明は見当たらない。
野崎委員	c		4	工程表等のとおり進んでおらず、市民から広く意見を集約する工夫が重要ですので今後に期待しております。
延原委員	c		4	何故条例制定がH23になったのか説明されたい。理由が合理的か否かが重要です。
橋本委員	c		4	遅れがあるが、実施していると判断しました。 学校訪問と運動した形での事業展開等PTチームとして出来るだけ手間を省き、効果を生み出すように出来ないだろうか。
林委員	c		4	
廣瀬委員	c		4	2010年秋の専門分科会以降動きが止まっているようだ。
福崎委員	b		7	期日の目標も大事ですが、条例制定の審議などは、複数年度にわたる間に、そのまま消えてしまわないようにすることが大事かと思えます。 パブリックコメントの実施日程など、ひとまず企画話しあいだけでも進んでいるのでしょうか？
町田委員	c		4	
三浦委員	c		4	進捗度は内部評価と同様の判断。 取り組み状況を見ると、専門部会の内部検討の段階で留まっているようだが、そこから先に進まない理由が不明。
委員会評価 (平均点)	c		4.1	

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度主な目標等	H22年度主な実績 進捗度aの要素 進捗度cの要素 加点要素 減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点減点	点数	評価理由
条例宣言	-5	「文化都市創造条例」の制定	2年以内	22年中に制定	・文化都市創造条例の制定	・条例案を議会に上程したが、継続審議となった。	c		4	・条例の制定に至らなかったため「c」と判断した。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加点減点	点数	
伊藤委員	c		4	何でも条例が必要とは考えられない。
猪野委員	c		4	目標を達成できていない。進捗度は遅れていると判断。
木島委員	c		4	評価理由：遅延
栗原委員	c		4	
高島委員	c		4	内部評価と同じ
長野委員	c	△	5	工程表通りのスケジュールで条例案は成文化され、上程された。但し、成立してはいない。
野崎委員	c		4	工程表等のとおり進んでおらず、条例の制定は勿論のこと、市民意見をしっかりと反映していただきたい。
延原委員	c		4	何故議会で「継続審議」になったのか説明されたい。場合によっては評価不能。
橋本委員	c		4	条例に関しては、当初予定より進捗状況が遅いように感じられるが、当初の工程表を見直す必要があるのか、ないのか。その検証もあればぜひ開示してほしい。
林委員	c		4	
廣瀬委員	b	▽	6	議会への提案までは来ているので、bと評価する。議会の審議が続いていて未制定である点を減点要素とした。
福崎委員	b		7	期日の目標も大事ですが、条例制定の審議などは、複数年度にわたる間に、そのまま消えてしまわないようにすることが大事かと思えます。 委員の審議を反映した箇所、という、資料の網掛け部分に好感が持てます。
町田委員	b		7	
三浦委員	b	▽	6	条例制定の遅れはみられるが、2月議会の上程しており「継続審議」となったのは議会の判断である。顕著な遅れではないと判断してbで減点とした。
委員会評価 (平均点)	c		4.8	

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度主な目標等	H22年度主な実績 進捗度aの要素 進捗度cの要素 加点要素 減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点減点	点数	評価理由
条例宣言	-6	「自治基本条例」の制定	3年以内	23年度末までに制定	中間報告とりまとめ(平成22年度末) 市長タウンミーティング開催 ニュースレター3回発行 市民フォーラム2回開催	中間報告とりまとめ(平成23年3月) 市長タウンミーティング開催(10区) ニュースレター3回発行 市民フォーラム未開催	b	↓	6	・概ね取組内容、工程表とおり進捗したので「b」と判断した。 ・情報発信や意見収集に努めたが、3月の市民フォーラムを東日本大震災の影響を考慮し中止したので減点評価した。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加点減点	点数	
伊藤委員	c	↓	3	現法の中で条例を定める必要性は感じない。(不要)
猪野委員	b	↓	6	市民フォーラム未開催のため減点評価。市民フォーラムの開催を前倒しできなかったのか疑問。
木島委員	b	↓	6	プラン「取組内容」やむ終えない事情による遅延
栗原委員	b	↓	6	
高島委員	b	↓	6	中止した市民フォーラムはどうするのか?
長野委員	b	↓	6	概ね工程表通りに進んだ。しかし、2回予定されていた市民フォーラムは全て未実施となっている。
野崎委員	b		7	概ね工程表のとおり進捗していますので。今後も意見の集約を積み重ねていただき、市民フォーラムの開催を望みます。
延原委員	b		7	3.11のため市民フォーラムを中止したことを原点とせず「市民を集める」ことが不能なのでやむを得ない。
橋本委員	b	↓	6	工程表に追われていた印象があります。傍聴者が参加しやすいように平日の夜間に検討委員会を開催・・・といくつかの事業で見ることが出来るが、どのようなデータからの記述なのか。
林委員	c	↑	5	市民参画や、広く周知できるという点で、最も効果が期待できる市民フォーラム未開催に終わったため。
廣瀬委員	b		7	22年度の進捗としては市民フォーラム開催直前の段階まで順調に進められてきていたので、震災影響は不可抗力と判断し、工程表通りと判断した。
福崎委員	b		7	震災の影響は、評価を下げる理由としては挙げなくてもいいと思います。 市民タウンミーティングが予定通り開催できたことは、市民参画という指標に沿って、高く評価できると思います。
町田委員	b	↓	6	
三浦委員	b	↑	8	内部評価の減点要素は震災の影響でやむを得ない事情。一方、市民フォーラム未開催をカバーしてあまりある取り組みを、検討委員の自発的な取り組みで実践しており、加点要素と判断した。
委員会評価 (平均点)	b		6.1	

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度主な目標等	H22年度主な実績 進捗度aの要素 進捗度cの要素 加点要素 減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加 点 減 点	点 数	評価理由
条例宣言	-7	「安心長生き条例」の制定	4年以内	23年度末までに制定	他団体先進例の研究及び市民アンケート調査の実施 条例制定スキームの策定 社会福祉審議会への諮問	他団体先進例の研究及び市民アンケート調査の実施 条例制定スキームの検討 社会福祉審議会への諮問	b		7	・平成22年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので「b」と判断。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進 捗 度	加 点 減 点	点 数	
伊藤委員	b	↓	6	何でも条例で解決できない。
猪野委員	b		7	工程表通り進捗。
木島委員	b		7	評価理由：目標通り
栗原委員	b		7	
高島委員	b		7	
長野委員	b		7	工程表通りの進捗である。
野崎委員	b		7	概ね工程表のとおり進捗していましたので。
延原委員	b		7	特になし。
橋本委員	b		7	事業計画（工程表）のとおり、進捗したと判断しました。
林委員	b		7	工程表の通り。
廣瀬委員	b		7	工程表通りに進んでいるが、まだ枠組しか見えない。
福崎委員	b		7	期限を長めに設置していることもあり、他の条例と比べて目標条件が優しかったのかと思います。 アンケート調査は繰り返し行うべきかと思いますが、その回数を目録設定する必要はないでしょうか？
町田委員	b		7	
三浦委員	b		7	現段階までの進捗度はプラン通りと評価。 ただし、この条例制定に向けた取組みの情報がほとんど聞こえてこない（例えば、地域包括支援センター運営協議会や福祉のまちづくり推進協議会の委員を務めていても、情報提供はなされない）ので、これからの条例策定プロセスでの市民意見反映の取り組みを注視したい。
委員会評価 (平均点)	b		6.9	



宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度主な目標等	H22年度主な実績 進捗度aの要素 進捗度cの要素 加点要素 減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点減点	点数	評価理由
1 行政改革	3	区長マニフェスト	すぐ	22年度から毎年4月公表	区長マニフェスト及び区長マニフェスト評価書の作成・公表  外部評価(アンケート)の実施	区長マニフェスト及び区長マニフェスト評価書の作成・公表  外部評価(アンケート)を実施	b	↓	6	・平成22年度の目標、取組内容、工程表のとおり進捗したので、「b」と判断した。 ・東日本大震災の影響により、外部評価を実施できなかったことから減点評価した。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加点減点	点数	
伊藤委員	b	↓	6	区長(職員)がマニフェスト 不要である
猪野委員	b		7	大震災の影響はやむをえないと考え、外部評価の遅れは減点対象とはしなかった。ただし前倒しできたのであれば減点評価とする。
木島委員	c		4	評価理由: 主な目標に外部評価の実施とあるが未達の為。
栗原委員	b	↓	6	
高島委員	c	↑	5	アンケート未実施
長野委員	b	↓	6	外部評価の遅れ以外は概ね工程表通りといえる。なお、外部評価アンケートの設問が目標設定自体の妥当性を問うものか、達成度を問うものか不明である。
野崎委員	b	↓	6	数値化し、わかりやすい内容のマニフェストが望まれます。達成状況なども合わせて明確にしていくことでより必要性和効果が示されます。
延原委員	b	↓	6	* 当日以下の点説明下さい。 区長政策提案コンペが11/16,11/18に実施。 H23.4.1付の新区長は前任者の政策をそのまま受け継ぐのか?
橋本委員	b		7	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。
林委員	b	↓	6	
廣瀬委員	b		7	工程表通りに取り組みました。震災の影響は不可抗力と判断。
福崎委員	c	↑	5	震災の影響を考慮から外しても、アンケートの準備が3月に行われたというのは、実施に向けてはやや遅れていたのではないのでしょうか
町田委員	b	↓	6	
三浦委員	b	↓	6	進捗度は内部評価と同様。 ただ、区長の職務に「マニフェスト」はなじまないのではないかと。
委員会評価(平均点)	b		5.9	

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度主な目標等	H22年度主な実績 進捗度aの要素 進捗度cの要素 加減要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加減点	点数	評価理由
1 行政改革	6	指定管理者をすべて公募により選定	すく	22年度から指定管理者公募選定	指定管理者の更新時期に合わせ、指定管理者を公募により選定  審査選定委員会小委員会に外部委員を試行的に採用し、審査を実施	平成22年度は27施設すべての指定管理者を公募により選定  市民・スポーツ文化局小委員会に外部委員を試行的に採用	b		7	・平成22年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので「b」と判断した。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加減点	点数	
伊藤委員	b		7	公募による選定について、選出した後の管理状況を予想通りか否か、継続し確認が必要と思う。
猪野委員	b		7	工程表通り進捗。
木島委員	b		7	評価理由：計画通り
栗原委員	b		7	
高島委員	b	↓	6	外部委員採用は市民文化局のみ？
長野委員	b		7	工程表通りの進捗である。
野崎委員	b		7	概ね工程表のとおり進捗していましたので。選定に関してはより慎重に検討を行っていただきたい。
延原委員	b		7	評価を変更する可能性があるので28の公募選定されたリスト及び透明性確保の観点から、競合見積の方法、評価について説明ください。
橋本委員	b		7	事業計画（工程表）のとおり、進捗したと判断しました。
林委員	b		7	工程表の通り。 これはすべて公募とすることで本当に良くなるのか？内部評価にあげられた課題が非常に懸念される。
廣瀬委員	b		7	工程表通りの進捗。公募化による成果の把握も必要である。
福崎委員	b		7	目標は達成されていますが、透明性の確保という点では、公募に関係した経費の公開も、目標として明示すべきではないでしょうか
町田委員	b		7	
三浦委員	b	↓	6	プラン通りの進捗しているが、複数施設を一括（パッケージ）で公募するなど、公募制度の内実の改善の余地を残すと判断して減点。
委員会評価 (平均点)	b		6.9	

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度主な目標等	H22年度主な実績 進捗度aの要素 進捗度cの要素 加点要素 減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点減点	点数	評価理由
1 行政改革	7	一職員一改革提案制度の創設	すく	24年度までに提案件数年間4,000件	年間の提案件数2,000件 庁内業務改善事例発表会の開催 若手職員による検討グループの設置	年間の提案件数5,019件の改善事例報告 庁内業務改善発表会「第1回カイゼンさいたまマッチ」の開催準備 西区役所の若手PTの積極的な活動により「キッズなコーナーの設置」を実現化 第5回全国都市改善改革実践事例発表会へ参加	b	+	8	・年間提案件数が大幅に目標を上回ったものの、平成23年3月に開催を予定していた庁内業務改善発表会が、東日本震災の影響で延期となったため「b」判断。(平成23年5月頃に開催予定) ・平成21年度と比較し業務改善件数が倍以上になったこと、また、自治体初の試みとして、発表会の動画配信を実施する方向で準備を進めていたこと、更には、全国大会に初参加したことに対し加点評価した。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加点減点	点数	
伊藤委員	c		4	行政内の提案は、市民として解らない。
猪野委員	a		9	目標を大幅に上回る進捗。大震災の影響はやむをえないと考え、発表会の未開催に関しては減点対象とはしなかった。
木島委員	a	+	10	評価理由：達成率250%を評価
栗原委員	b	+	8	
高島委員	b		7	業務改善の事例が2倍となったのは評価するが、提案件数の目標2000は妥当だったのか？
長野委員	b	+	8	年間提案件数が計画目標を上回る結果となったことを加点とする。年間約5000件の提案からの採択・実現に至る過程、実現結果の情報公開が進むことを期待する。
野崎委員	b		7	概ね工程表のとおり進捗していましたので、改善改革を確りと継続していただきたい。また、改善の結果なども広く発信していただくことでより高い効果につながると考えます。
延原委員	a		8	* 3.11で改善発表延長は減点せず。 * 件数のみならず金額提示が必須と思う。
橋本委員	b	+	8	改善提案数が増加した点を加点。さいたま市全職員のうちのどれくらいの割合で提示があったのか、全体数なのか割合も含めて数字を達成するのか？
林委員	b	+	8	積極的な取組み姿勢が感じられる。提案された件数はおそらく総数で、内容が別々となる件数ではないと思うが、職員の問題意識が奮起され、業務改善が活発に行なわれていることを評価。
廣瀬委員	b	+	8	提案件数の伸びを評価。震災影響は不可抗力と判断した。
福崎委員	a		9	震災の影響は、評価を下げる理由としては挙げなくてもいいと思います。 ぜひ継続して頂きたい取り組みですし、高評価にすることで、次年度への意欲も高まるかと思えます。
町田委員	a		9	
三浦委員	b		7	内部評価と同様の判断。
委員会評価 (平均点)	b		7.9	

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度主な目標等	H22年度主な実績 進捗度aの要素 進捗度cの要素 加点要素 減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点減点	点数	評価理由
1 行政改革	8-1	予算編成過程の透明化(予算編成過程の公開)	すく	22年当初予算編成から編成過程を公表	平成23年度当初予算編成の公表 公表対象の拡大	平成22年度補正予算編成及び平成23年度当初予算編成を公表 総合振興計画新実施計画事業、しあわせ倍増プラン2009事業及び行財政改革推進枠で要求のあった全事業を公表	b	↑	8	・平成22年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので、「b」と判断。さらに、新たに補正予算の編成過程を公表したことなどを加点。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加点減点	点数	
伊藤委員	b		7	透明化、公表は当然である。
猪野委員	b		7	工程表通り進捗。
木島委員	b		7	評価理由：計画通り
栗原委員	b	↑	8	
高島委員	b		7	
長野委員	b	↑	8	補正予算編成過程の公開を加点とする。公開対象事業の拡大は工程表の通りと判断する。
野崎委員	b		7	概ね工程表のとおり進捗していましたので、公表対象事業も更に拡大していただきたい。
延原委員	b		7	* 加点する程でもない。
橋本委員	b		7	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。
林委員	b	↑	8	
廣瀬委員	b	↓	6	公表時点の遅さを前年度に指摘されているが、改善が見られない。
福崎委員	b	↑	8	非常に重要な取り組みだと思います。内容の詳細を、今後より分かりやすくしていくことを目標に入れて頂きたいと思います。
町田委員	b		7	
三浦委員	b		7	プラン通りの進捗と評価。 補正予算も含めて年間予算なので特に加点はしない。
委員会評価 (平均点)	b		7.2	

宣言・分野	事業番号	増進プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度主な目標等	H22年度主な実績 進捗度aの要素 進捗度cの要素 加点要素 減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点減点	点数	評価理由
1 行政改革	8-2	予算編成過程の透明化(会派要望への対応状況の公表)	すぐ	21年度から回答書公表	・市議会各会派からの「予算編成への要望書」に対する回答書を市民に分かりやすく作成し、予算編成終了後、2月中に市のホームページなどで公表	・2月議会終了後の3月上旬に市議会各会派からの「予算編成への要望書」に対する回答書を公表	b	↓	6	・平成22年度の主な目標等のとおり、進捗したため、「b」と判断した。ただし、ホームページへの公表が3月になったことから、減点評価した。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加点減点	点数	
伊藤委員	b	↓	6	透明化、公表は当然である。
猪野委員	b	↓	6	公表が3月となったことを減点評価。
木島委員	b	↓	6	評価理由：若干の未達
栗原委員	b	↓	6	
高島委員	b	↓	6	内部評価と同じ
長野委員	b	↓	6	内部評価結果は妥当と考える。なお、議会審議を行う前に対会派調整を行うことから考えると、予算案・関連議案上程と同時に公表することもできるのではないだろうか。
野崎委員	b		7	概ね工程表のとおり進捗していましたので。引き続き分かりやすく且つ、速やかな公表を継続していただきたい。
延原委員	b		7	*減点するほどの遅れではない。
橋本委員	b	↓	6	昨年に引き続き、同時期での公開になった理由が表記されていない。改善する意思がないように思ってしまう。
林委員	b	↓	6	-
廣瀬委員	c	↑	5	議決後の公表を透明化として位置づけられるのか？
福崎委員	b		7	公開資料の内容がよくまとまっていると思います。 日付設定のために、評価が下がるのはあまり適切でないように思います。
町田委員	b	↓	6	
三浦委員	c	↑	5	プランの趣旨から考えて、1月下旬に会派に回答ずみの内容が、ホームページで「公表」されるまでに1カ月以上かかっているのは大きな遅れ。 公表は実施されたとしても、意義は半減したと判断した。
委員会評価 (平均点)	b		6.1	

第2回 6月24日(金) 開催分

宣言・分野	項 目	個 別 事 業	評価 事業数	ヒアリング	
				事業数	(追加) x (削除)
行動宣言 (5)	-1 マニフェスト検証大会を毎年開催。(4年以内)		1		
	-2 タウンミーティングを全10区で計40回開催。(4年以内)		2		
	-3 現場訪問を400回実施。(4年以内)		3		
	-4 学校訪問を全校実施。(4年以内)		4		
	-5 職員との車座集会を100回開催。(4年以内)		5		
条例宣言 (7)	-1 市長任期を3期までとする、多選自粛条例を制定します。(すぐ)		6		
	-2 生涯スポーツを推進し、スポーツを活用した総合的なまちづくりを推進する「さいたま市スポーツ振興まちづくり条例」を制定します。(すぐ)		7		
	-3 障がい者も健体者も共に地域で暮らせるノーマライゼーション条例を制定します。(すぐ)		8	1	
	-4 一人ひとりの子どもが輝くために「子ども総合条例」を制定します。(2年以内)		9		
	-5 「文化都市創造条例」を制定します。(2年以内)		10		
	-6 さいたま市の憲法「自治基本条例」を市民参画で制定します。(3年以内)		11		
	-7 他市に類をみないスピードで進む高齢化に備えて「安心長生き条例」を制定します。(4年以内)		12		
行財政改革 (14/28)	1 民間人専門家を入れた行政改革推進チームを、市長直轄組織として設置します。(すぐ)	1-1 行財政改革推進本部の設置	13	2	
		1-2 事務事業評価の見直し	14	3	
		1-3 補助事業の見直し	15	4	
		1-4 外郭団体改革	16	5	
		1-5 公共施設マネジメント会議設置	17	6	
	2 すべての窓口業務を区役所で行えるようにします。(すぐ)	2-1 窓口改革・権限移譲(統括)	18	7	
		2-2 予算	19	8	
		2-3 組織・人事	20	9	
		2-4 暮らし応援室の設置	21	10	
	3 区長マニフェストを全区長が策定するようにします。(すぐ)		22		
	4 市長の退職手当を5.0%減額します。(すぐ)				
	5 市長給与を1.0%減額します。(すぐ)				
	6 指定管理者の指定などにおける透明性を確保します。(すぐ)		23		
	7 一職員一改革提案制度を創設します。(すぐ)		24		
8 政令市初の予算編成過程の透明化も含め、徹底的な情報公開を行います。(すぐ)	8-1 予算編成過程の公開	25			
	8-2 会派要望への対応状況の公表	26			

## 第3回 7月8日(金) 開催分

宣言・分野	項 目	個 別 事 業	評価 事業数	ヒアリング (追加) ×(削除)				
				当初案 による 事業数	猪野 委員	延原 委員	橋本 委員	三浦 委員
行財政改革 (12/28)	9 情報公開日本一を実現します。(2年以内)	9-1 情報提供体制の整備	1	1			×	
		9-2 都市経営戦略会議の審議内容等の公表	2	2			×	
		9-3 パブリックコメントの充実	3	3			×	
		9-4 パブリシティの推進	4	4			×	
		9-5 身近な道路整備要望への対応状況の公表	5	5			×	
		9-6 市へ寄せられた意見とその対応状況の公表	6	6			×	
	10 外郭団体の長への市長・副市長の兼職を廃止します。(2年以内)		7					
	11 職員の自動的な天引きを廃止します。(2年以内)		8					
	12 行政職への民間人登用を含め、実力ある人を適材適所に配置します。(2年以内)	12-1 行政職への民間人登用	9					
		12-2 民間企業等経験者の採用	10					
		12-3 適材適所の人事配置	11					
	13 電子市役所を構築します。(4年以内)		12					
	市民・自治 (3)	14 区民会議・コミュニティ会議の活性化に向けた、検討会議を設置します。(すぐ)		13				
15 市民活動を推進するための「マッチングファンド制度」を創設します。(2年以内)			14					
16 大学コンソーシアムの仕組みを構築します。(4年以内)			15					
子ども (24)	17 子どもの好奇心を伸ばすために、プロのスポーツ選手やアーティストなどによる授業を拡大します。(すぐ)		16					
	18 基礎学力向上のための「読み・書き・そろばんプロジェクト」、基礎体力向上のための「なわとび・逆上がりプロジェクト」、生活習慣向上のための「あいさつ・礼儀」・「早寝・早起き・朝ごはん」を推進します。(2年以内)	18-1 読み・書き・そろばんプロジェクト	17					
		18-2 なわとび・逆上がりプロジェクト	18					
		18-3 あいさつ・礼儀	19					
		18-4 早寝・早起き・朝ごはん	20					
	19 「放課後子ども教室」を倍増します。(2年以内)		21					
	20 児童虐待ゼロを目指し、対応する職員(保健師、児童相談所員など)を増員します。(2年以内)	20-1 児童相談所の充実	22	7				
		20-2 保健所の充実	23	8				
	21 家庭・地域・学校が連携して取り組む「土曜日寺子屋」を実施します。(4年以内)		24					
	22 子どもの創造力を高める「子ども博物館構想」を推進します。(4年以内)		25					
	23 「子育てババ応援プロジェクト」を推進します。(4年以内)	23-1 1日保育士体験	26					
		23-2 子育て支援センターの活用	27					
		23-3 ワークライフバランスの認知度向上	28					
23-4 親の学習などのアドバイザー育成・親育ち支援策		29						
24 保育所・学童保育所「待機児童ゼロプロジェクト」を推進します。(4年以内)	24-1 認可保育所	30	9					
	24-2 ナーサリールーム・家庭保育室	31	10					
	24-3 放課後児童クラブ	32	11					

第3回 7月8日(金) 開催分

宣言・分野	項 目	個 別 事 業	評価 事業数	ヒアリング (追加) ×(削除)				
				当初案 による 事業数	猪野 委員	延原 委員	橋本 委員	三浦 委員
	25 北九州方式を参考とした小児救急体制や、産科救急体制を整備します。(4年以内)	25-1 小児救急	33					
		25-2 産科救急	34					
	26 高校教育の底上げを図り、質の高い特色のある学校づくりを推進します。(4年以内)		35					
	27 一人ひとりの子どもが輝くために、心のサポート推進事業を充実します。(4年以内)		36					
	28 ノーマライゼーションの理念の共有化に向け、障害のある人もない人も、誰もが同じように住み慣れた地域で暮らし学べるよう、特別支援教育を充実します。(4年以内)		37					
	29 学校教育における食育を推進します。(4年以内)		38					
	30 メディアリテラシー教育の充実と携帯・ネットアドバイザー制度を創設します。(4年以内)		39					

ヒアリング対象項目追加理由

・ 13 電子市役所構築

(延原委員)

大震災など大きな災害を受けたとき、どうシステムやDataを保全し、どう速やかに回復させるかの基本方針が目標に明示されていないので、目標に含むよう要望したい。それに対する回答を頂きたい。  
なお、経営戦略質が担当部署から聞き取り、代行して説明されても構わない。

・ 15 「マッチングファンド制度」を創設

(三浦委員)

プランの遅れの理由についてヒアリング希望。事前送付資料で説明があればヒアリング不要。

・ 22 子ども博物館構想

(三浦委員)

プランの遅れの理由についてヒアリング希望。事前送付資料で説明があればヒアリング不要。



第4回 7月22日(金) 開催分

宣言・分野	項 目	個 別 事 業	評価 事業数	ヒアリング		
				事業数	(追加) × (削除)	
高齢者 (7)	31	介護する人への支援体制を充実します。(すぐ)	1			
	32	配食サービスの拡充を図り高齢者の自立を支援します。(すぐ)	2			
	33	空き教室や空き店舗、遊休施設などを活用し、各区に高齢者サロン・介護者サロンを設置します。(4年以内)	33-1	高齢者サロン	3	1
			33-2	介護者サロン	4	2
	34	シルバー人材センターの充実や団塊の世代の市民活動の推進など、高齢者が地域で働く場を増やします。(4年以内)		5	3	
	35	シニアユニバーシティを充実します。(4年以内)		6	4	
	36	高齢者を対象とした、(仮称)シルバー元気応援ショップ制度(割引制度)を創設します。(4年以内)		7		
健康 ・安全・安心 (8/17)	37	37-1	食生活・運動	8		
		37-2	介護予防	9		
	38	遊休地などを活用した、スポーツもできる多目的広場を倍増します。(4年以内)	38-1	多目的広場整備方針の決定	10	5
			38-2	都市公園内のグラウンド等の個人への開放	11	6
			38-3	民有地を活用した多目的広場の整備	12	7
			38-4	「(仮称)スポーツふれあい広場」の整備	13	8
			38-5	大学との連携による多目的広場の整備	14	9
			38-6	農業関連施設へのスポーツもできる多目的広場の整備	15	10

第5回 8月5日(金) 開催分

宣言・分野	項目	個別事業	評価事業数	ヒアリング		
				事業数	(追加) x (削除)	
健康 ・安全・安心 (9/17)	39 万全な危機管理体制を構築します。(4年以内)	39-1 総合防災情報システムの構築	1	1		
		39-2 危機事案発生時の初動体制の確保	2	2		
		39-3 防災ボランティアコーディネーターの養成と避難場所運営体制の構築	3	3		
		39-4 災害時要援護者への支援	4			
		39-5 マンホールトイレの整備	5			
		39-6 新型インフルエンザ対策	6			
		39-7 地域防犯ステーションなどの増設と自主防犯パトロールの促進	7			
40	民間住宅の耐震化補助事業を拡充します。(すぐ)		8			
41	障害者自立支援法の時限措置終了後も、市独自の負担軽減策を継続します。(すぐ)		9			
環境 ・まちづくり (11/25)	42	市内照明のLED化率全国1位を目指します。(4年以内)		10		
	43	太陽光発電設備の設置を推進します。(4年以内)		11		
	44	「E-KIZUNA Project」などの実施により、次世代自動車の普及を促進します。(4年以内)		12	4	
	45	さいたま新都心のサッカープラザ計画は白紙撤回します。(すぐ)		13		
	46	コミュニティバス路線の検討委員会を設置します。(すぐ)		14		
	47	新規建設事業費の1%を魅力ある文化・芸術のまちづくりに配分します。(3年以内)		15		
	48	公園・市有地・校庭などの芝生化、緑のカーテン事業などで身近な緑を増やす「みどり倍増プロジェクト」を実施します。(4年以内)	48-1 公園の芝生化	16	5	
			48-2 学校の芝生化	17	6	
			48-3 保育園の芝生化	18	7	
			48-4 学校の緑のカーテン	19	8	
			48-5 公共施設・家庭の緑のカーテン	20	9	
48-6 公共施設の緑化			21	10		
48-7 民間建築物の緑化			22	11		
48-8 花と緑でいっぱい・区の花の制定			23	12		

## 第6回 8月19日(金) 開催分

宣言・分野	項 目	個 別 事 業	評価 事業数	ヒアリング	
				事業数	(追加) × (削除)
環境 ・まちづくり (11/25)	49 見沼たんぼ、荒川などの自然環境・歴史的遺産を保全・活用し、教育ファーム、市民農園など市民が憩える場所を増やします。(4年以内)	49-1 見沼基本計画の策定	1	1	
		49-2 歴史的遺産・自然環境の活用	2	2	
		49-3 教育ファームの実施	3	3	
		49-4 市民農園の整備	4	4	
		49-5 東宮下調節池の広場整備	5	5	
		49-6 高沼用水路の整備	6	6	
	50 良好な住環境を守るための「高度地区」による高さ制限を導入します。(4年以内)		7		
	51 下水道、都市公園、生活道路など生活密着型インフラ整備を推進します。(4年以内)	51-1 都市公園の整備	8		
		51-2 暮らしの道路・スマイルロードの整備	9		
		51-3 下水道の整備	10		
	52 効率的な道路ネットワークを構築するため、都市計画道路を抜本的に見直します。(4年以内)		11		
経済・雇用 (2/20)	53 ワーキングプアを増やさない、部局横断的な「自立生活支援対策チーム」を設置します。(すぐ)	53-1 セーフティネットの構築	12	7	
		53-2 ステップアップの取組	13	8	

第7回 8月30日(火) 開催分

宣言・分野	項 目	個 別 事 業	評価 事業数	ヒアリング	
				事業数	(追加) × (削除)
経済・雇用 (18/20)	54 介護、福祉、医療、教育、環境、農業などの分野を中心に「雇用倍増プロジェクト」を実行します。(4年以内)	54-1 ものづくり企業支援事業	1	1	
		54-2 テクニカルブランド企業認証事業	2	2	
		54-3 戦略的企業誘致	3	3	
		54-4 産学連携によるイノベーション創出	4	4	
		54-5 新規就農者支援事業	5	5	
		54-6 事業所内保育施設推進事業	6	6	
		54-7 介護福祉士資格取得支援	7	7	
		54-8 ホームヘルパー2級資格取得支援	8	8	
		54-9 福祉介護人材の養成確保	9	9	
		54-10 ものづくり人材支援事業	10	10	
		54-11 マッチング事業	11	11	
55	市内の観光資源を有効に活用し、海外も含め観光客を積極的に誘致します。(4年以内)		12		
56	起業家応援のための「ベンチャービジネス倍増プロジェクト」を実行します。(4年以内)	56-1 人材育成支援	13		
		56-2 創業環境支援	14		
57	コミュニティビジネスの支援制度を充実します。(4年以内)	57-1 コミュニティビジネス育成事業	15		
		57-2 コミュニティビジネス促進事業	16		
58	中小企業・小規模事業者への融資制度を充実します。(4年以内)		17		
59	企業のCSR活動の認証制度を創設・推進します。(4年以内)		18		
地域間対立を 越えて (3)	60	大宮駅東口再開発は、東日本の玄関口として経済・商業都市としての機能を高める開発を推進します。(4年以内)	19	12	
	61	地下鉄7号線延伸は、経済性などを十分に考慮し、まちづくりと連動させて推進します。(4年以内)	20	13	
	62	市庁舎のあり方は、地域的対立を越えた視点から、市民の声を聞きながら検討します。(4年以内)	21		

平成23年度「しあわせ倍増プラン2009市民評価委員会」  
 現地視察（案）

- 1 実施日時 平成23年7月 8日（金）16：00～  
 または、7月22日（金）16：00～
- 2 実施場所 浦和区（JR浦和駅周辺）
- 3 視察内容・スケジュール（案）

	時刻	工程・内容	関連事業名
	16:00	集合（JR京浜東北線浦和駅西口改札前）	
1	16:10～ 16:40	子育て支援センターうらわ （浦和区高砂）	（23-2） 子育て支援センターの活用
2	16:50～ 17:10	高砂小 学校緑のカーテン事業	（48-4） 学校の緑のカーテン
3	17:30～ 18:00	仲本児童センター・老人福祉センター 仲本荘（複合施設）	（33-1） 高齢者サロン
4	18:20～ 18:40	仲本小 マンホールトイレ整備	（39-5） マンホールトイレの整備
	18:40～ 18:50	浦和コミュニティーセンターへ移動	
	19:00～	第 回市民評価委員会（浦和コミュニティーセンター）	